

## 要 報

## 分類・分布學

**小笠原諸島の蔓脚類** Some barnacles from the Ogasawara Islands. 彙報 18, 49-57, 1939 年 3 月 15 日 弘富士夫 F. HIRO 瀬戸臨海実験所

九大池田隼人氏により小笠原諸島伊豆島南方 200 米の深海より採取された蔓脚類三種 (中二種は新種) の記載 *Smilium boninense* n. sp.——全長 30mm に達する赤紅色又は白色の美麗な種。亞峰板が角状に著しく外方に突出して長く、嘴板が低くて幅の 3 分の 1 の高さを有する事が著しい外部標徴である。内的には蔓脚の各節が著しく細長く、その處々に赤斑を有し、且つ交接器が第六蔓脚の基節よりも短い矮小なのが主なる特徴である。矮雄は通常 6 個の殻板を有す。 *Echylasma ecaudatum* n. sp.——周殻表面に網目状の紅斑あり、楯板は細長く、8 條の縦走溝の爲に成表線は波状を呈する。背板は幅廣く、距はゆるやかに凸出した底縁の半に過ぎない。嘴板と嘴側板は完全に癒着し、兩面共に縫合線を残さない。尾狀附屬器は痕跡的、皮膚の一部突起するのみ。交接器は第六蔓脚の脚基の兩節より少し長い位で、輪狀隆起を有しない。殻長 9-10 mm。 *Balanus krügeri* PILSBRY——記載省略。

**伊豆半島の多毛環蟲類 (I) Polychaetous Annelid of Izu Peninsula 1. Polychaeta, Collected by the "Misago" during the Zoological Survey around the Izu Peninsula. 東京文理大紀要 Sec. B, No. 57, 193-220, 1938 年 9 月 10 日 高橋敬三 K. TAKAHASHI 東京文理大動物學教室**

1934-35 に下田臨海実験所の採集船“みさご”に依つて伊豆半島東側の海底を數次に互つて動物調査を行ひし際の多毛環蟲類の報告にして 10 科 19 種を記載せるものにして、この中に一新種 *Leanira izuensis* を含む。この新種は初島伊東間の深さ 100 米の海底より得しもので、底質は砂質で

多量の貝の死殻を含んでゐる。體長 84 mm, 體幅 7 mm で近似種 *L. vultris* HORST とは、第一鰓が第 15 剛毛節にあること、眼を缺くこと、觸鬚の相違等によつて區別される。

**タカアシガニより得たる動物 I. 蔓脚類, II. 貝類** Notes on the animals found on *Macrocheira kaempferi* DE HAAN. 彙報 17, 465-476 1938 年 11 月 18 日 弘富士夫

日本の有する著名な動物の一たるタカアシガニに關しては形態的にはよく研究されてゐるけれども、その生態に就ては不明な點が多い。著者はその生態の一端を知る意味に於て、その體表及び體腔内に棲息する動物を調査した結果を發表したもので、第一篇蔓脚類、第二篇貝類よりなる。蔓脚類はその共棲動物中最も顯著で種量共に多い群であつて、次の 9 種が発見される。大部分は有柄類に屬する。1, *Heteralepas (Heteralepas) japonica* (AUR.), 甲及脚に附着。2, *H. (H.) quadrata* (AUR.) 甲及脚に附着。3, *H. (Paralepas) rosea* n. sp., 甲及脚に附着、從來 KRÜGER 及び NILSSON-CANTELL によつて *H. (P.) pedunculata* (HOEK) に同定されてゐたものを著者は新に別種とした。4, *Trilasmis (Poecilasma) kaempferi* (DARWIN), 甲面に夥しく附着するオレンジ色のヒメエボシ。5, *T. P. obliqua* (HOEK), 常に外側に表はれた口器に附着するレモン色のヒメエボシ類。6, *T. (Temnaspis) excavatum* (HOEK), 顎脚又は腹部附屬肢に稀に附着してゐる事がある。7, *Octolasmis aymonini* (LESSONA etc.), 常にタカアシガニの鰓室に棲息する透明な種類で、一個體の蟹に於て數百を以て數ふ。8, *O. orthogonia* (DARWIN), 9, *Balanus trigonus* DARWIN, 共に甲表に稀に附着する。以上の中 4, 5, 7 の三種は殆んど常にどの蟹の個體にも見られる最も普通なものである。貝類では二種類 *Pseudamysium (Palliolium) vitreum* (GMELIN), *Ostrea (Pycnodonte) musashiana* YOKOYAMA が発見されたが、前者は世界的に分布してゐる種類

であるが、相模灣及び紀州ではタカアシガニのみより得られてゐる事は注目に値する。

**日本淡水産枝角類；動物地理學的描寫** Japanese Freshwater Cladocera; a Zoogeographical Sketch. 彙報 17, 283-294, 1938 上野益三 Masuzo UENO 京都帝大附屬大津臨湖實驗所 朝鮮半島を除く日本全版圖(樺太, 千島, 北海道, 本州, 九州, 琉球, 臺灣, 南洋群島)から知られた, 淡水産枝角類に關する動物地理學的考察である。その立論の材料は殆んど大部分著者自身の數年來の研究の結果による。本文に取扱つた淡水産枝角類は, 全部で8科, 29屬, 61種, 7亞種で, 枝角類の科は全部我國に産するわけである。そのうち, ミジンコ科 (Daphniidae) 及びマルミジンコ科 (Chydoridae) は最も屬種に富み, 1屬1種のみホロミジンコ科 (Holopedidae) 及びノロ科 (Leptodoridae) も夫々我國の陸水中に見られる。

日本列島の淡水産枝角類相は, 普遍種, 北方系及び南方系種の3要素よりなる所謂混合動物相をなす。各要素混合の割合は南北各地方によつて異なる。即ち北海道及びそれより以北(千島, 樺太)では, 普遍種は該地域から知られた全種類の75%以上を占めるが, 本州以南ではその割合は次第に小さくなり, 臺灣では65%になつてゐる。北方系の代表者は, 極北地方に分布してゐる *Eurycercus glacialis* 及び *Bosmina coregoni obtusirostris* で, 北千島にのみ見られる。適温範圍の稍大きいもの, 例へば *Ophryoxus gracilis* は北海道まで南下してゐる。北方系要素の南進は夏季水温が20°C以上に昇らぬ地域, 即ち北海道東北半部までに限られてゐるやうである。その適例は *Daphnia longispina* の尖頭型プランクトン品種で, この種北方系のものが更に南下して本州中部まで達する場合には, 高山湖か, 低地の湖の冷い深水層に限られてゐる。長野縣木崎湖の周年深水層のみに生活してゐる *Daphnia longispina* の1品種などはこのよい例である。この木崎湖の品種或は琵琶湖の深層に居る *Daphnia pulex pulex* のプランクトン品種などは, 夫々の湖とその運命を共にして來たものと見做すべく, 生理生態學上も興味深いものである。

臺灣には熱帯系の種類の進出が目覺しい。特に, *Diaphanosoma paucispinosum*, *D. sarsi*, *Alona diaphana* などは注意すべき種類である。そのあるもの(例: *Ceriodaphnia rigaudi*)は本州まで北進してゐるが, その分布の北限は熱帯湖(冬季の表面水温が4°C以下に降らぬ湖沼)の北限(大體北緯36°線に一致する)と大略並行してゐるやうである。この地域内でも南方系種の分布は平地の水域に限られ, 高い山地には發見せられぬ。委任統治南洋群島ではバラオ島ガルドック湖の枝角類を知るのみであるが, それらは全部熱帯系要素よりなり, 日本列島にも分布してゐる種類は一つもない。日本列島と東亞大陸との枝角類相の類縁關係は, 滿洲國の該相が瀕る明かになつたのに伴ひ, 次第によくわかつて來た。

**本邦産網蚊科の一新屬一新種** A New Genus and Species of Blepharoceridae from Japan. 京大紀要 14, 341-352, 1938年8月30日北上四郎 Sirô KITAKAMI 京都府立醫大豫科

信州奈川村黒川産の網蚊科標本より1新屬1新種を記載した。 *Neohapalothrix kanii* 之である。昭和11年8月可兒藤吉氏初めて蛹と幼蟲(第4齡)を採集し, 12年6月今西錦司氏より該標本の査定を依頼された。著者は同年6月より8月にかけて三回該昆蟲の産地を訪れ, 各齡幼蟲並びに蛹を多數に得, 成熟せる蛹より♂♀を引出すことが出來た。

本科昆蟲の産地は山間の溪流に限られてゐる爲め, その分布は動物地理學的に興味深い。殊に同一屬や近縁屬が隔絶せる諸大陸や島々に見出されるのである。脈相に於て, 本屬は *Paltostominae* 亞科の諸屬, 例へば南米, 南アフリカ産の *Curupira*, 南米の *Paltostoma* 及び *Limonicola*, 中歐の *Hapalothrix*, 中央アジアの *Tianschanella* 等と符合する。就中 *Hapalothrix* とは蛹や幼蟲の諸形質に於ても類似點あり, 最も近縁ならんと考へられる。一方, 兩者の間には幾多の重要なる相違點あり。例へば觸角の節數, 口器の長短, 大顎の有無, 距の有無, 爪の形狀, 長剛毛の有無等。蛹に於て, 背面の棘の有無, 中胸背面の點布, 膠着器の數等。幼蟲(第4齡)に於て, 第1體節の側葉の